

かがや
いのち、輝け！

とじょうこく けんこう まも
—途上国の健康を守るために—



写真提供：庄司康治／JICA





タイトル	ページ
1.  感染症とは？	 1
2.  予防接種により予防可能な感染症	 3
3.  HIV／エイズの蔓延	 5
4.  安全な水と衛生の確保	 7
5.  国際的な協力による感染症対策	 9

はじめに

この小冊子「いのち、輝け!」は、児童・生徒のみなさんが、先生や保護者の方々と共に、世界の「感染症」についての理解を深めていただくことを目的にJICA（ジャイカ）が作成したものです。

世界中の多くの人々、特に開発途上国と呼ばれる地域に生きる人々が、色々な感染症によって、日々、命を失っています。これは、日本などの先進国では予防や治療ができるものが、途上国では貧困などの様々な問題により、対応が難しいという現状によります。

世界中の少しでも多くの命を感染症から守り、人々の健康を増進するためには、何が必要でしょうか？この小冊子では、5章にわたって感染症にまつわる様々な課題と、これに対する取り組みを紹介しています。

この小冊子を一人でも多くの方々に読んでいただき、「感染症」を同じ地球に暮らす私たち自身の身近な問題としてとらえ、また、私たちがこの問題に対し、「なにができるか？」を考え、「なにかができる!」と思うきっかけとなればうれしいです。

JICA地球ひろば所長

感染症とは？

世界では多くの人々が、本来なら予防や治療ができる感染症という病気で死んでいます。

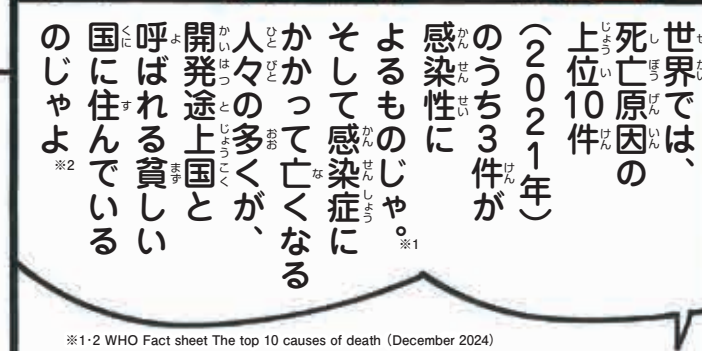
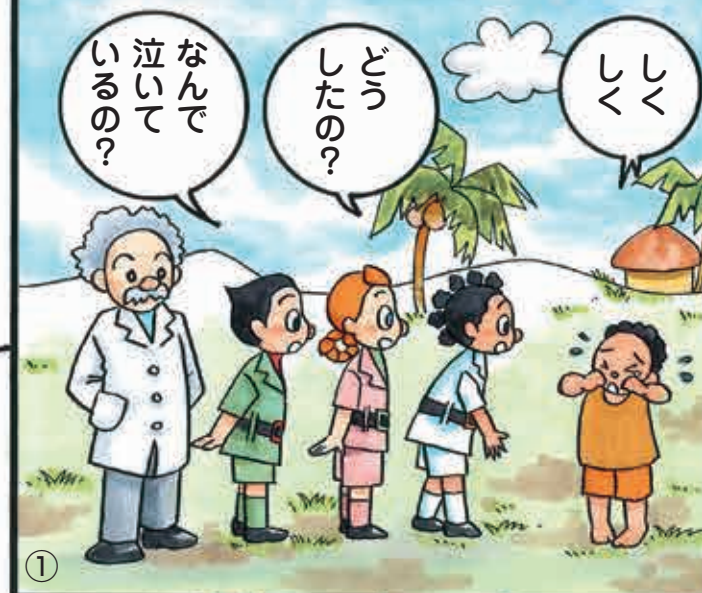
また国際化が進み、人や物の移動が活発になり、感染症も、国境を越えて広がるようになってきました。

先生・保護者の方へ

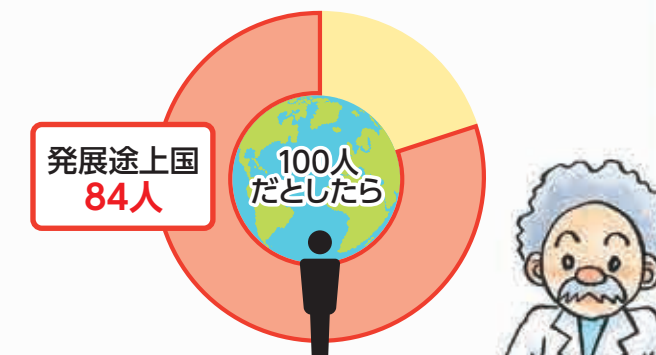
人間と感染症との闘いは長い歴史を持っています。ペスト、コレラ、天然痘などは世界各地で繰り返し大流行してきました。14世紀のヨーロッパでは、「黒死病」と呼ばれたペストの大流行で全人口の3割が命を落としたとされています。

日本でもかつては、天然痘、コレラ、赤痢、結核などの感染症が頻繁に流行し、昭和初期の結核は国民の死因の第一位でした。

近年は、「新興感染症」や「再興感染症」の存在が目立ってきています。「新興感染症」とは、1970年代以降に新しく発見された感染症で、エイズ、エボラ出血熱、腸管出血性大腸菌感染症（O-157）、SARS、高病原性鳥インフルエンザなどが含まれます。「再興感染症」とは、近い将来克服されようと考えられてきた感染症のうち、再び流行し始め、患者数が増えているもので、結核やマラリアなどです。



※1・2 WHO Fact sheet The top 10 causes of death (December 2024)



開発途上国とは？

- ・開発途上国：産業や技術の発展が遅れ、経済成長の途中にある国
- ・後発開発途上国：開発途上国の中でも、特に開発が遅れている国
- ・先進国：産業や技術の発展が大きく進んだ国

(DAC2022-23より)

出典: WDI The World by Income and Region (worldbank.org)

感染症とはウイルスや細菌、寄生虫などが空気や水、食べ物、動物や人を通して感染する病気で、その数はとてもたくさんあるんじゃないや。



最近では三大感染症のほかに鳥インフルエンザやエボラ出血熱、新しい感染症が恐れられているんじゃないや。

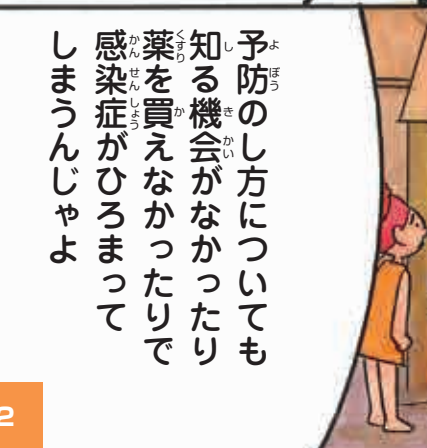


2023年は、63万人が死亡、HIV（人免疫不全ウイルス）が血液や体液を通して人から人へ感染、まだ完全な治療薬がない、予防教育のいきとどかないアフリカで特に深刻。



2023年は、125万人が死亡、結核菌が患者のセキなどを通して感染、現在は治療薬があるが1940年代まで日本でも「国民病」といわれるほど患者が多かった病気。

テレビのニュースで聞いたことあるよ、日本では、はしかの流行も話題になったね。



予防接種により 防げる感染症

感染症はこれまで多くの
人々から命を奪ってきました。
医学の進歩により予防接種や
抗生物質が開発・普及され感染
症の流行を防ぐことができるよ
うになってきました。

先生・保護者の方へ

感染症の中にはワクチン接種により感染を
予防できるものもあります。

はしか、おたふくかぜ、ポリオ、ジフテリア、
百日ぜき、破傷風などです。日本では第
二次世界大戦後、予防接種を徹底し、あわせ
て保健所の全国設置、集団検診の実施、衛生
教育の普及活動などにより感染症の流行を防
いできました。

日本をはじめとする先進諸国や国際機関は、
医療分野はもちろんのこと、人材育成を含め
た保健医療システムの整備、教育や水など他
の関連分野の支援など包括的に感染症対策に
取り組んでいます。

あっ、何して
いるの？

ポリオ
ワクチンを
のんでいるんじや

①

予防接種は
感染症を防ぐのに
きき目の高い方法な
んじや

②

ワクチン接種によって
感染症を予防する方法は
1796年イギリスの
エドワード・ジェンナー
によって発見、開発
されたんじや

エドワード・ジェンナー
1749～1823

牛痘（牛のかかる天然痘）にか
かった人間は天然痘にかから
ない事を見つけ、牛痘のワクチン
を少年に接種した

③

君たちも
いろいろな予防接種を
赤ちゃんのときに
受けているんじやよ

④

ぼくの母子手帳に
記録があったよ

ジフテリア
百日ぜき
破傷風
ポリオ
はしか

ほとんどの日本の子どもは
予防接種を受けている
しかし、途上国では
ワクチンが高いうえに
病院も少ないので
まずしい人たちは
なかなか
予防接種を
受けることが
できないんじや

写真提供：飯塚明夫/JICA

こうした支援で
ポリオはだいぶ予防できる
ようになってきたんじやよ
天然痘は1980年に
根絶宣言が出されたんじや



これらは
子どもたちが
かかりやすい
感染症じや

⑤

そこで
ユニセフや
WHOなどの
国際機関や
先進国の
機関が
ワクチンを送ったり予防のための
技術支援をしたりしているんじや



⑥

⑦

4

3

エイチアイブイ／エイズの蔓延

エイチアイブイ／エイズやマラリア、結核などの感染症は開発途上国を中心に大きな問題になっています。特にHIV関連の原因でこれまで4,230万人以上が亡くなっています。

今日は三大感染症の一つ
HIV／エイズについて勉強しよう



※6 WHO Fact sheet HIV/AIDS (November 2020)



HIV（ヒト免疫不全ウイルス）の感染者は全世界で約3990万人
HIVにより発症したエイズによる死者は100万人近くにのぼっている

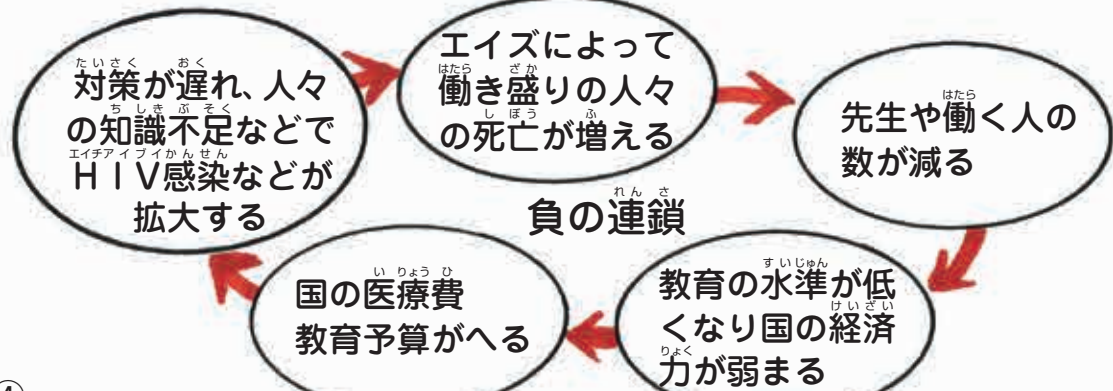
②



※7 UNAIDS Report on the global AIDS epidemic (2024)

③

貧しい国でHIV／エイズが広がるとそれが他の悪いことをひきおこし状況がますます悪くなってしまうんじゃない？



④



⑤



⑥



⑦

先生・保護者の方へ

HIV／エイズは、開発途上国を中心に大きな問題になっています。貧しい人々を追いつめているからです。特に、サハラ砂漠以南のアフリカは、HIV／エイズの影響を最も深刻に被っています。全世界のHIV感染者の約2/3がこの地域に集中しているからです。HIV／エイズの蔓延は、生産年齢人口を死に至らしめたり、国の医療費負担を増大させます。それは、ただでさえ貧しい国々にとって、社会経済基盤の大きな打撃となります。つまり、HIV／エイズの蔓延は単なる保健衛生上の問題にとどまらず、国の発展・成長にかかわる課題なのです。

● WHO Fact sheet HIV/AIDS (November 2024)

安全な水と衛生の確保

感染症の予防には、予防接種

のほかに安全な水の確保や衛生環境を改善することが必要です。

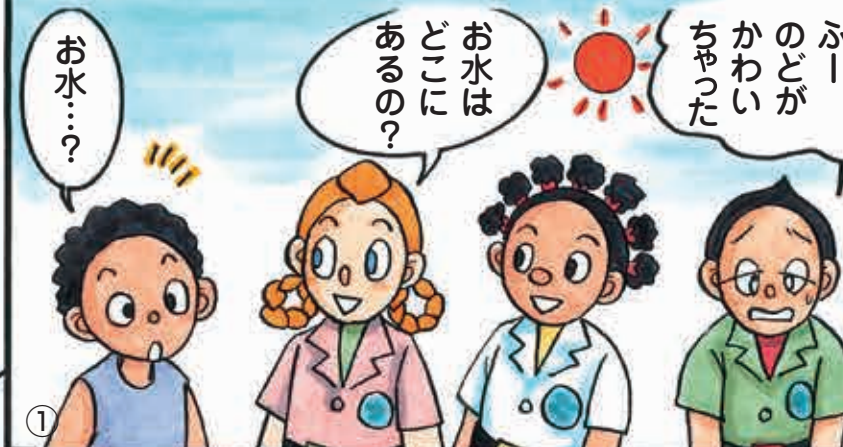
先生・保護者の方へ

現在世界では、安全に管理された水を飲めない人たちが22億人います。そのうち約7億人は自宅から往復30分以内に、安全な水が汲める環境にありません。整備された水道や水汲み場などの水源が近くにない、つまり基本的な飲み水さえも手に入れづらい状況にあるのです。また、清潔なトイレなどの適切な衛生施設にアクセスできない人たちは45億人いると言われています。このような生活環境は、赤痢やコレラなどの水系伝染病の蔓延と深く関わっています。

貧困地域において「安全な水」を確保し、安定して供給すること、トイレの整備、保健衛生教育の推進は感染症対策の大きな課題となっています。

日本の、水と衛生分野における援助実績は世界一で、この分野における豊富な知見があり、上下水道の整備・拡張や、給水率の向上のためのプロジェクトなどソフト・ハード両面からの国際協力に取り組んでいます。

⑧ WHO and UNICEF Progress on Drinking Water, Sanitation and Hygiene: 2024 Update and Sustainable Development Goal Baselines
⑨ 外務省 2024年度版 開発協力白書



バイ菌を殺すために水を沸とうさせる

薪も電気もない

⑧ WHO and UNICEF Progress on Drinking Water, Sanitation and Hygiene: 2017 Update and Sustainable Development Goal Baselines

写真提供：JICAアフリカ部

次回くわしく勉強しよう

国際的な協力による感染症対策

人々の命や暮らしをおびやかす感染症の予防のため、国際的な支援が行われています。



①



②



③



④

開発途上国の感染症予防のために

世界でどのような支援が行われているかわしく見てみよう

国連がとりまとめた「持続可能な開発目標(SDGs)」にはHIV／エイズの蔓延やマラリアの発生を2030年までにくいとめることが盛り込まれています

WHOやユニセフは予防接種を広めるための支援やトイレや井戸などの衛生環境の整備、人材育成などを行っています

このほかに日本をはじめとする先進諸国やNGOとよばれる非政府組織なども開発途上国で感染症対策の活動をしています

先生・保護者の方へ

2015年、国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)では、17の目標と169のターゲットが掲げられました。目標3は「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」、これをさらに具体化したターゲット3.3は「2030年までに、エイズ、結核、マラリアおよび顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症およびその他の感染症に対処する。」で、持続可能な世界のために、各国が協力して病の根絶に立ち向かっていきます。

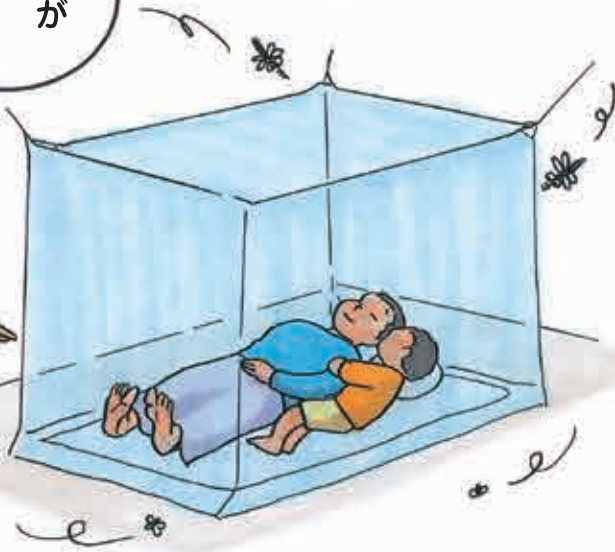
ほかにもこのような活動をしているよ

マラリア予防の蚊帳の配付



新ワクチンの研究

これが蚊帳なのね



感染症で苦しむ人々が世界中にしていることを

みんなが知って、考えて、協力できることを探す気持ちが大変なんじゃ

私たちもできるとからはじめましょう

私は募金をするわ

クラスのみんなと話したりボランティア活動をするのもいいね



⑦

学校で活用できる JICA国際理解教育/開発教育支援 プログラム

地球ひろば訪問

JICA地球ひろばの目玉展示「地球ナビ」では、SDGsの各ゴールについて学べる。



▲▲▲
地球ひろばの
最新情報

「市民参加による国際協力の拠点」としてオープンしたJICA

地球ひろば。東京をはじめ全国8か所で、映像やクイズによる展示に加え、民族衣装の試着や世界の料理を味わえるレストランなど、“見て・聞いて・さわって”、途上国の暮らしや地球が抱える課題、国際協力の現状を学べる場所となっている。JICA横浜に併設する海外移住資料館では、日本人の海外移住の歴史と日系人の現在を学ぶことができる。

国際協力出前講座



▲▲▲
国際協力出前講座の
最新情報

海外協力隊の経験者や職員、国際協力専門員など国際協力に携わったJICA関係者や途上国からの研修員が講師となり、自らの体験をベースに国際理解につながる内容を伝える。講師が直接訪問する「対面型」と、途上国で活動中の隊員などと交流する「オンライン型」の2種類から選択可能。体験談、異文化理解、国際協力キャリア、SDGsなど希望のテーマに沿って講師と講座内容を組み立てる。



講師がアフリカ地域の民族衣装を着て、現地の生活・文化を子どもたちに紹介。

16 JICA 沖縄 (おきなわ地球ひろば) ★



教員向け研修

1965年から続く教師海外研修。約10日間の海外研修と渡航前後の国内研修で構成。



▲▲▲
教員向け研修の
最新情報

開発教育に興味・関心のある教員を対象に、途上国を訪問す

る「教師海外研修」、それぞれの国内拠点でテーマ別に行われる「国内研修」、指導案の作成・授業実践のレベルアップに取り組む「指導者研修」など、対象者や目的が異なるさまざまな研修を実施している。参加者同士の意見交換や協働作業を通してネットワークを築くことで、研修後も各地域の学校教育関係者と連携してさらなる開発教育の推進を図る。

14 JICA 中国 (ひろしま地球ひろば) ★



13 JICA 四国



12 JICA 関西 (かんさい地球ひろば) ★



15 JICA 九州 (きゅうしゅう地球ひろば) ★



10 JICA 北陸



11 JICA 中部 (なごや地球ひろば) ★



9 JICA 駒ヶ根



4 JICA 二本松



3 JICA 東北



5 JICA 筑波 (つくば地球ひろば) ★



6 JICA 東京

7 JICA 地球ひろば ★

8 JICA 横浜 (海外移住資料館) ★



1 JICA 北海道 (札幌/ほっかいどう地球ひろば) ★



2 JICA 北海道 (帯広/おびるっく) ★



JICAの国内拠点 (★:体験型施設)



もっと知りたい
JICA国内拠点

国内拠点の最新情報を
JICAのサイトでチェック

開発教育支援教材



▲▲▲
開発教育支援教材の
最新情報

冊子教材はダウンロードだけでなく、無料での貸し出しや提供にも対応。



子どもたちが世界の現状や課題について理解を深めるための教材を作成し、無料で提供している。主体的・対話的で深い学びにつながるよう、授業でそのまま活用できるワークや、映像、マンガで学ぶもの、さらにはゲームを取り入れたものまで各種揃える。多文化共生の教材や、教員向けに授業のヒントとなるようなガイド冊子や指導案事例も。すべて地球ひろばのホームページからダウンロードが可能となっている。

国際協力エッセイコンテスト



▲▲▲
エッセイコンテストの
最新情報

2023年の表彰式で審査員との座談会や受賞者同士のワークショップも行った。



途上国の現状や日本との関係について理解を深め、グローバル社会の中で自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えてもらうことを目的として、中学生と高校生を対象に毎年開催。上位入賞者には約1週間の海外研修やフェアトレード商品を贈呈。海外研修では訪問国の文化体験や同年代の生徒との交流、現場が抱える課題とそれらに対するJICAの取り組みを視察することで、国際理解をさらに深める。



JICA地球ひろば
(独立行政法人国際協力機構)

〒162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5 TEL : 03-3269-2911 URL : <https://www.jica.go.jp/hiroba/>

第一版：2007年12月
第二版：2019年3月
第三版：2025年8月



2025.8